

那 覇 市 教 育 委 員 会 会 議 録

平成24年度第6回（定例会）

署名人 喜久里美也子

委員長 城間勝 勝

開催日時 平成24年6月21日（木）

開会 午前10時00分

閉会 午前11時00分

開催場所 那覇市教育委員会 第1会議室

出席委員 城間勝委員長、金城眞徳委員、添石幸伸委員、喜久里美也子委員、城間幹子教育長

議事日程

議案第8号 那覇市立学校結核対策委員会委員の委嘱について（学校教育課）

議案第7号 那覇市教育事務点検評価委員会への諮問について（総務課）

出席職員

【生涯学習部】新城和範部長、屋良朝秀副部長

（総務課）伊良皆宜俟課長、伊禮弘匡副参事、當間千明主査

【学校教育部】喜瀬乗英部長、宮内勇人副部長

（学校教育課）小林貞浩課長、饒平名るみ子主査

会議録作成 （総務課）仲間稔主査

- 城間委員長 ただいまから平成24年度第6回教育委員会会議定例会を開催いたします。
本日の会議録署名は喜久里委員にお願いいたします。議案第8号「那覇市立学校結核対策委員会委員の委嘱について」説明をお願いします。
- 喜瀬部長 提案理由説明
- 小林課長 資料説明
- 城間委員長 この件につきまして、ご質問、ご意見等ございましたらお願いします。
- 金城委員 先日、ある病院の方からお話を聞く機会があり、結核というのは昔の人の病気ではなく、近頃も肺結核はすごく多く、肺がんもたくさんいるということを知り、驚きでしたが、これは児童生徒の結核のことについて、いろいろ議論をなさるということで、大変いいことだと思います。
- 喜久里委員 この結核対策委員会はどのようなことをしているのですか。
- 饒平名主査 児童生徒全員が健康診断を行います。また、4月に結核に対する問診表を全児童生徒にお配りしています。その2つの結果から、結核の心配がある児童生徒を教育委員会の方に挙げていただいて、本当にこの子達が結核の心配があるかどうかということで、この委員会にかけるということになります。年間、十数名いますが、そちらの子の名簿と問診表も、学校医が書いたものも含めて委員の先生方に審議していただいて、心配があるという場合はこの決定を受けて、教育委員会の費用で児童生徒に精密検査を受けてもらいます。その結果を委員の先生方に相談し、どのようにしたらいいかということも含めて行っています。
- 喜久里委員 結核患者の推移はどのようになっていますか。
- 饒平名主査 実際に委員に審議していただくのは十人前後で、精密検査を含めてですが、ここ2、3年は結核と判断された方はいません。
- 金城委員 今もツウ反ですか。
- 饒平名主査 新1年生のお子さんまでの家庭は全員1歳未満でBCGを受けることになります。それ以前はツベリクリンだったと思いますが、制度が変わっているということです。
- 城間委員長 他よろしいでしょうか。それでは議案第8号「那覇市立学校結核対策委員会委員の委嘱について」原案どおり決定してよろしいですか。
- 全 員 異議なし
- 城間委員長 議案第8号については議決確定します。続きまして議案第7号「那覇市教育事務点検評価委員会への諮問について」説明をお願いします。
- 新城部長 提案理由説明
- 伊良皆課長 資料説明
- 城間委員長 この件につきまして、ご質問、ご意見等ございましたらお願いします。
- 金城委員 31ページの青少年旗頭事業の中の今後の展開が「改善」となっており、学校によっては教員の負担になっているということがあります。これは以前からそういう話がありましたが、やはりPTAや、それから地域の皆さん方の力を借りるところが大きいと思います。校長先生にも言いますが、なかなか恥ずかしがって、地域の力を活用

できないのが多く見られるようですし、今回、この旗頭の事業については地域と、それから学校、PTA、教師が連携を取り合ってやっていく事業です。もっともっと広く広げてほしいところもありますので、そこの方に力を入れていただけますようお願いいたします。

喜瀬部長 学校と連携しながら、場合によっては一緒に対応するなどのことも考えていきたいと思えます。

金城委員 地域には、那覇大綱挽の時の旗頭団体もありますし、首里には20ぐらいの青年団、また地域には自治会の旗頭もあります。そういったところをお願いすればいくらかでも手を貸してくれると思えます。ただ学校の方からお願いがこないためになかなか自分達からは出ることができないという実情があります。そこのところをお願いすればいくらかでも先生方の手を借りずに安全面も十分考慮すればできると思えますので、そういうことでよろしく願います。

城間委員長 まさにそのとおりだと思います。学校長の力量というか、理念というか考え方によって大きく影響される事業だと思います。地域の教育力を活用しようということで旗頭事業が誕生したと思えますが、日常的に地域の人達とパイプを作っておけば何の問題もないけれど、校長によっては作りきれない方もいます。日常的にいろんなことを含めて地域とのコミュニケーションもその一つだと思いますが、そういうことをしておくとか頼みやすくなると思えますが、それがあまり得意ではない校長が中にはいらっしゃるようで、日ごろから繋がりをつくってほしいと思えます。

金城委員 実は、この旗頭は、私ども石嶺の地域の方で20年前に作ったのですが、その時は学校の補導員をしながら子ども達とのコミュニケーションというのがなかなか取れなくて、補導指導の困難さを感じたのですが、その時に各字の方を見ていると、モヒカン刈りのウーマクー、元気のある中学生、高校生と一緒にやっているのを見て、コミュニケーションを取るのはこれだなと、我々はこれをぜひ地域にも作ろうということで20年前に作って、それが青年旗。それから少年旗、婦人旗ということで3つの旗頭を作ってやったのが首里文化祭に参加した。それが今では少年旗というのがいっぱい出ている。青年旗とともに地域の自治会から25、6の旗頭がこうしてパレードしている。ですから地域の皆さんから健全育成の面で力を借りるということは、元気のある子ども達にとっては大変いい場所です。ぜひ継続してほしいと思えます。

添石委員 34ページのNARAEネット推進事業。この事業と関連することで教えてほしいことと、意見ですが、最近、小学生から大学生まで含めてこの子達をどのように社会教育を含めてどう就職率に結んでいくかというところのいろんな会議に参加させてもらうようになってきたのですが、先日も県内の各大学の就職支援の担当者とする県の商工労働局等々と会議がありましたが、その中で、子ども達と企業をどう結びつけるかという議論はあるのですが、でも、先生方と企業との接点というのがあまりにも無さ過ぎるのではないかと、子ども達と中小企業の若き経営さんとの場を設けるという話がありましたが、そうではなく、先生方ともっと企業との接点作りというのが大事

じゃないですかと提案しました。その話もあったので、この教師の学ぶ機会を充実させるという観点からいったときに、もちろん本来の教育というのは大事な部分で、琉大とか、大学との接点、そこで何かを学ぶ機会は大事なんでしょうけれど、いま高らかにキャリア教育とか社会教育を言っている一方で、先生方と企業との接点づくり、場合によっては先生方が担当している科目に関連するような企業へのインターシップ、もしくはそうでなくてもいい意味でお互いに意見交換をしたり、学ぶ機会というのがどこを見てもないので、いまここにないだけで実際は行われているのか。もし、ないのであれば、そういうのはどうなのか、ということを質問します。

喜瀬部長

教員が授業をしながら企業体験というのは非常に難しい面があります。現在、教職員になって10年たった教員に対しては10年研が義務付けられています。ということで10年を迎えた教員は自分で勤め先を探す、あるいは教育委員会が探してきたりするわけですが、そういうことを通して企業体験という形を取らないと、それ以外には教員が企業の方と交流を持つというのは非常に難しいというのが現実です。今お話があった企業の方と先生方の交流というのは、必ずしも交流という形は取らなくてもコミュニケーションは取れるのかなと改めて私も気づかされました。そういう形では教育委員会の中でも考えられるし、あるいは学校の中で夏季研修の中で地域の企業家の皆さんと子ども達の職場体験をということも含めながら一緒に話し合いの場があると、ある意味で何か変わってくるのかなということを今改めて考えさせられました。

城間教育長

ご指摘いただいた「NARAEネット推進事業」は学校教育の根幹の授業力をアップするための事業です。琉大の先生方に入ってもらって指導案の作り方や教材の研究をしたり、まさにその部分で、いまご指摘のキャリア教育とはまた違う形です。実は学校教育課長から今朝、報告がありましたが、新しい事業としてキャリア教育、グットジョブに関するところで600万円ほど予算を計上して、それを使って学校と、教師だけではなく、学校と企業、職業人の方々と結びつける、紹介する形になるのか結びつけるのか、そういった事業をいま構想しています。青写真の段階で、まだはっきりと結果は出てないですが、そういう構想があるということはありません。添石委員が商工会議所の皆さんとか、そういったところとネットワークを持っているので、学校といかに繋いだらいいかという、その部分についてはいろんなご意見も伺いなさいということを今朝、話をしたばかりです。おっしゃるようにまだ繋ぐ部分がはっきり見えてなく、我々もどうしたらいいかと、県からのキャリア教育の施策がまだ途中なので、だんだんに根付いてくると思います。それこそ今は、点々でみんながやる気を出しているので、それを結びつけるのはやはり教育行政の役目だろうと思いますので、ぜひその際にご意見等、ご指導ご助言をいただければありがたいと思います。サポートもいただきたいと思います。よろしくお願いします。

喜瀬部長

今おっしゃっている部分というのは、子ども達の社会体験とかインターシップというところは、本来、沖縄県の若者の就職ということから、県の事業として高等学校を中心にスタートしてきました。県立高校で定着してきたので、小中でも必要だろうと

いうことでいま視点が移ってきたということです。

城間教育長 大学では遅い。高校から、高校でも遅い。中学校、小学校から職業意識、社会性を身につけるということが必要だろうというのがいまのキャリア教育の主体です。

添石委員 主体というのも非常に大事な部分ですが、どこかできちっと議論、ただ単に下していけばいいというようなものでもなく、逆に私も来週初めて中学校の生徒を受け入れるのですが、今までは就職手前の専門学生や高校生だったのですが、中学生をどう受け入れていいのか職場でもみんなで話をしています。やはり子どもの過程の中で社会を知るといって、どのレベルで何を職場で体験させればいいのかということを考えているので、それを逆に日頃お子さん達と接している先生方と企業側できちっと議論をして、闇雲に受け入れても間違った体験をさせてしまっただけとはいけないという非常に怖さもあります。

喜瀬部長 これについてはまさに学校側の説明不足です。システムとしての形が県の方から出ていますが、それを先生方も同じように理解していなかったり、企業に対してのアプローチについての理解ができていないところがあります。

城間教育長 学校側の説明はありましたか。

添石委員 ありましたが、ただ先生方は走り回って大変なんです。余裕をもって「すみません、すみません」でおこしになるのですが、現場で、企業を見つけて説明に入る先生方は見ても余裕がないです。

城間委員長 確かに学校というところは、夢や希望を教えるところだから現実的ではないかもしれないけれども、ある意味で企業は現実です。現実生きていく中で、夢や希望を増幅していくという、夢や希望だけでは生きていけないところを早めに身に付けさせるのがキャリア教育だと思います。夢や希望を実現するためには現実を見ないといけない。現実の苦しさ、厳しさ、それを2日か3日ぐらいの職場体験では絶対身に付かないのも現実ですよ。ある資料を見たときに国は5日間をすすめています。2日、3日はがまんできる。あと一時がまんすればいい。3日すぎから企業の苦しさとか仕事の大変さというのがわかるから、だから5日間ということらしいけれども、2日、3日ぐらいは、明日がまんすればいい。だから職場体験というのは決してそういうことにはなっていないのではないかとということがありました。そうすると、職場体験以外にどういうしくみが必要かといったら、職員と企業との日常的な交流など、そうすると授業を教えるときのやり方などが大幅に変わってくると思います。

金城委員 私どものところでも毎年4校ぐらいから4日間ぐらい来ますが、毎日、朝の1時間は座学、何でこちらにきたのか、何の目的で親は頑張っているのか、あなた方がご飯が食べられること、洋服を着けられることはわかるか、一生懸命仕事をして給料をもらっているから、そういうことの座学を毎日1時間やります。目的などを含めて、それから残りは現場へ移動して現場でメカニックと一緒に仕事をします。そして出張があればそこにも連れていきます。それから最終的には車を1台、工具を与えて4、5名で一緒にばらします。楽しそうにやります。そして最後は組み立てる、というふう

なことで結局は洋服も汚れるし、現物の車を目の前にバッテリー液はこうなんだ、そういったことを体験しながら目的意識をしっかりとって、楽しんでやっています。

喜久里委員 22ページと24ページの2つの項目ですが、22ページの生徒サポーター派遣事業と、24ページの学校サポート支援員活用事業の内容を読んだ感じでは捉えきれない部分がありますが、どのような違いがあるのでしょうか。

喜瀬部長 22ページの方の生徒サポーターというものは、基本的に問題行動のある子ども達を支援するため生徒サポーターを学校に派遣しています。それから24ページの方の学校サポート支援員活用事業は、教育相談課が行っている自立支援教室「きら星学級」というのがありますが、そこに支援員を置いて子ども達の支援を図る、ということです。ですから、学校で行っているものと、教育相談課の方で行っているというところでの違いです。

喜久里委員 この2つは連携していますか。

喜瀬部長 連携しています。

金城委員 支援サポーターについては、校長先生が推薦していると思いますが、その推薦される人の性格的な面など、そういったことももう少し調べてからやらないと、一方通行的な生徒指導に、学校にあまり深入りするとか、地域とのコミュニケーションが取れないとか、そういった悩みも抱えている学校もあります。ですから推薦されてきたその人のことをもう少し調べてやらないと、ただし、安い賃金でそういったボランティア的なことをやれる人というのは少ないので、あまり線引きして合格ラインを上げると人が採用できないということもあるかもしれませんが、そこまでいなくても、もう少しその人をよく見て対応していただければいいなと思います。

喜瀬部長 改善方法があるか検討してみます。

金城委員 36ページのパソコン保守管理事業で、小中学校全校にパソコン教室とパソコンは入ったのでしょうか。

喜瀬部長 すべての小中学校に児童生徒が活用するためのパソコンはすでに配備されていて、情報機器というのは結構寿命が短いため5、6年で入れ替えをもうすでに2回は行われています。

金城委員 54小中学校にパソコン教室もちゃんと整備されているわけですね。

喜瀬部長 整備されています。

城間委員長 他よろしいでしょうか。それでは議案第7号「那覇市教育事務点検評価委員会への諮問について」原案どおり決定してよろしいですか。

全 員 異議なし

城間委員長 議案第7号については議決確定します。以上をもちまして、平成24年度第6回教育委員会会議定例会を終了します。